共同体開発の基礎

モハン・ナルラ

共同体は、万国正義院の１９８５年の声明である「世界平和の確証」と、「ティーチングの補足説明」という題名の国際布教センターの手紙に骨子が示された原則に従って、計画と評価をする熟練を訓練する必要がある。この論文は計画と評価の構造における重要な段階を共同体開発の手段として説明するものである。

評価の段階は、

1. 学習者の姿勢を承認する。
2. 個々の努力の結果を系統だって熟考する。
3. 継続するプランに経験の成果を組み入れる。（下のプランニングサイクルを見よ）
4. 信頼、和合、謙遜、神の意志への服従がある雰囲気を作る。
5. バハイ信教のティーチングにある経験と英知を使って互いに協議する。（１に戻る）

評価は失敗を見つける活動ではないことを、このサイクルは示している。評価は、学習者が謙遜であること、過去の経験から学ぶ用意ができているといった心構えを承認することによって個人の段階に始まる。いったん正しい態度が採用されれば、次の段階はなされたことについて系統的に熟考することである。人々は、次の段階に役立つ基盤をもたらす、活動に影響する要素を見分けられる。これは、現在の状況と、何をしたらいいか、何をなすべきだったか等についてより深い理解を得るために系統だった反省から学んだ教訓を取り入れることである。このことが、神への依存と、信頼、和合、謙遜の雰囲気の開発に依存する次の段階に導く。そのような雰囲気の中で、学習された教訓は調べられ、将来のプランでなされる変更が同意される。評価の過程の結論は、経験と聖典にある英知に照らした協議にある。これが新しい計画のサイクルを始動させる。

プランニングサイクルには７つの段階がある。

１．過去の活動を振り返り評価する。（５段階評価サイクル）
２．新しい挑戦、問題、必要性を述べる。
３．挑戦を解決する原則を見分ける。
４．挑戦を解決する精神面を見分ける。
５．意志や熱望といった積極的態度を開発する。
６．挑戦を解決する実用的プランを考える。
７．バハイ世界本部の指導に従ってプランを実行する。
（１段階に戻る）